

老年看護学実習



老年看護学実習

I. 目的

老年期にある対象を理解し、健康問題に応じた看護を展開できる能力を養う。

II. 目標

1. 老化が生活に及ぼす影響を理解し、老年者の生活のあり方を学ぶ。
2. 健康障害がある対象を理解し、看護を展開できる。
3. 老人とのかかわりを通して老年観を深めることができる。

III. 実習方法

老年看護学実習Ⅰ及び老年看護学実習Ⅱの段階別として、前者後者ともに1クール実習する。

老年看護学実習Ⅰでは地域で生活する老年者を対象に、老化が生活に及ぼす影響を理解し、老年者の日常生活のあり方を学ぶことを、老年看護学実習Ⅱでは健康障害がある対象を理解し、看護を展開することをねらいとする。

実習単位	修得単位(時間数)	実習時期	実習場所
老年看護学実習Ⅰ	2単位 (90時間)	2年次	介護老人保健施設 介護老人福祉施設 社会福祉協議会 慈恵医大第三病院 外来 グループホーム
老年看護学実習Ⅱ	2単位 (90時間)	3年次	慈恵医大第三病院

IV. 実習内容

1. 老年期の発達の特性とアセスメントの視点

発達の特性	アセスメントの視点
身体的特性	1. 加齢にともなう身体諸機能の低下 ・生理機能の変化、運動機能の変化、感覚機能の変化、 ・日常生活への影響 2. 健康障害の慢性化と複合性 3. 回復力・予備力・防衛力・適応力の低下 4. 薬物動態の変化
心理・社会的特性	1. 認知機能の変化と精神的発達 2. 加齢にともなう情緒的变化 ・老いの受容、孤独、死への不安、充実感 3. 生きがいと生活の満足感 4. 役割の縮小・老人の社会参加 5. 老人の尊厳 6. 自立と依存のバランス
生活の特性	1. 老人と家族のライフスタイルの多様性 2. 老人の生活障害の程度と範囲 3. 生活経験の長さと人生観・価値観の多様性 4. 地域で生活する老人の生活のあり方 5. 施設で生活する老人の生活のあり方 6. 老人と家族をサポートする保健・医療・福祉サービスの現状

2. 対象の状態と実習内容

対象の状態	実 習 内 容
周手術期にある 老年者	1. 加齢に伴う諸変化を踏まえた術前の身体・精神的状況の評価 2. 老年者のペースに合わせた術前オリエンテーションや訓練の援助 3. 不安や緊張の軽減の援助 4. 術後の精神障害予防への援助 5. 術後合併症予防への援助 6. 老年者のペースに合わせた早期離床と廃用性症候群予防への援助
感染症・易感染症状態 にある老年者	1. 老年者の感染症の特徴を踏まえた観察 2. 慢性疾患の急性増悪に対する援助 3. 加齢に伴う生理的变化を踏まえた感染予防のための援助
認知機能障害のある 老年者	1. 情緒安定への援助 2. 残存機能の評価と残存機能への働きかけの援助 3. 異常行動への対応（コミュニケーション・事故予防） 4. 老年者・家族への精神的援助 5. 人との交流・生活の楽しみへの支援
寝たきり状態にある 老年者	1. 寝たきりに伴う合併症予防の援助 2. 残存機能の維持の援助 3. 在宅療養に向けての援助 4. 家族の介護能力の把握と介護に関する教育的かかわり 5. 老年者（閉じこもり）・家族への精神的援助
リハビリテーション を必要とする老年者	1. 老年者の生活様式とADLの状況に応じた日常生活行動の再獲得への援助 2. 事故防止(安全)への援助 3. 老年者のペースに合わせた援助 4. 心理的な自立への援助
セルフケアを必要と する老年者	1. 老年者・家族のライフスタイルや価値観を尊重した援助 2. 自己管理の意欲を持てるような援助
失禁のある老年者	1. 失禁のタイプに合わせた援助 2. 失禁による皮膚トラブル・感染など二次的障害の予防への援助 3. 排泄の自立への援助 4. 老年者への心理的影響への援助
摂食・嚥下障害のある 老年者	1. 摂食・嚥下障害の原因や段階に応じた援助 2. 誤嚥性肺炎の予防への援助

老年看護学実習 I

1. 目的

老化が生活に及ぼす影響を理解し、老年者の日常生活のあり方を学ぶ。

2. 目標

- 1) 老年期にある対象の特徴が理解できる。
- 2) 地域で生活する老年者の日常生活支援のあり方が考えられる。
- 3) 老年者の生活史、人生観、価値観を尊重した接し方が理解できる。
- 4) 老年者と家族の関係について考えることができる。
- 5) 老年者に必要な社会資源を知り、保健・医療・福祉の連携について考えることができる。

3. 実習場所と時間数

科目名	単位 (時間数)	実習場所	時間 (時間)	日数
老年看護学実習 I	2 単位 (90 時間)	学内(事前オリエンテーション)	7.5	1 日間
		調布市社会福祉協議会	26.0	3.5 日間
		グループホーム	7.5	1 日間
		介護老人福祉施設	7.5	1 日間
		介護老人保健施設	34.0	4.5 日間
		慈恵医大第三病院	7.5	1 日間

4. 実習に臨む上での留意事項

<健康管理について>

- 1) 健康診査・検便検査など実習に臨む上で必要な検査は漏れがないように受ける。
- 2) 実習施設へ行く前に必ず検温をして健康状態の確認をして実習に臨む。
- 3) 地域で生活する老年者の健康を守るために実習中の体調管理には留意する。
- 4) 体調不良の場合はすみやかに受診して学校へ報告する。
- 5) 実習に臨むにあたり健康上で判断に迷う場合は、学校に連絡し感染制御室の判断を仰ぐ。

<マナーについて>

- 1) 患者対応の5つの要素（挨拶・表情・態度・身だしなみ・言葉づかい）に留意する。
- 2) 学ぶ側（実習をさせて頂く側）としての姿勢、謙虚な心・感謝する心について学び、グループで協力し合う。

5. 記録について

1) 提出日

老年看護学実習Ⅰ全ての実習終了後の翌週月曜日の9:00までとする。
担当教員の提出棚に提出する。

2) 記録

各施設は全て日々録、アクティビティの企画書は自由とする。

3) レポートについて

テーマ：自由

全ての実習目標・内容を再度概観し、その中で最も文献と照らし合わせて考えてみたいテーマを選出してまとめる。

1600～2000字とする（40字×30行または原稿用紙）

鉛筆は不可とする。

4) 提出時の留意事項

- ①記録に関しては誤字脱字に留意し丁寧に書く。この実習の日々録に限り鉛筆でも可とする。
- ②全ての日々録に日付を付け、施設名を銘記する。
- ③日にち順に綴じ、「保健」「福祉」「社協」「GH」「外来」というインデックスシールを付ける。
- ④介護老人保健施設のアクティビティの企画書はリーダーのファイルに閉じる。
- ⑤評価表に自己評価をし、穴を明け最初に綴じ記録と共に提出する。実習要綱は不要である。

学内事前オリエンテーション

1. 目的

老年看護学Ⅰ＜地域で生活する老年者の看護＞の目標・内容・方法を理解し、自己の課題を明確にして実習に臨む。

2. 目標

- 1) 実習目標・内容・方法が理解できる。
- 2) 実習前の準備を理解し行動できる。
- 3) 各実習施設の特徴と実習上の留意事項が理解できる。

3. 方法

- 1) 実習時間 7.5 時間
- 2) 実習場所 第2教室
- 3) 内容と時間数

	時間	具体的内容
老年看護学実習Ⅰの概略	1.5 時間	老年看護学実習Ⅰの目標・内容 実習配置表の見方・確認
実習に向けての準備	1.5 時間	事前学習の内容 実習に臨む上での体調管理 実習に向けての準備するもの
各実習施設の目標・方法・留意事項	4.5 時間	各実習施設の特徴と実習留意事項 社会福祉協議会 グループホーム 介護老人保健施設 介護老人福祉施設

4) その他

(1) オリエンテーションにあたり以下のものを準備する。

- ①学生便覧
- ②実習要綱
- ③セーフティマネジメントマニュアル
- ④各施設のオリエンテーション時は事前学習
- ⑤オリエンテーションで配布された配置表など

(2) 履修上の条件を確認して参加する。

社会福祉協議会実習

1. 目的

地域の中での社会福祉協議会の役割を知り，老年者の生活支援のあり方について考える。

2. 目標

- 1) 地域における社会福祉協議会の役割がわかる。
- 2) 事業の目的や内容がわかる。
- 3) 地域で生活する老年者の生活のあり様を知る。
- 4) 地域で生活する老年者の生活支援について考える。
- 5) 多職種との連携について考える。

3. 方法

1) 事前オリエンテーション

- (1) 調布市社会福祉協議会 2F 会議室にて行う。
- (2) 日程は後日連絡する。
- (3) 20 分前に集合して会場の準備を行う。
- (4) 司会・進行は週番が行う。
- (5) 進行内容は以下の通りである。
 - ①調布市社会福祉協議会の役割
 - ②実習する事業の目的と内容
 - ③実習する上での留意点

2) 各事業の実習内容

- (1) ふれあい給食，高齢者会食，介護予防デイサービス，通所介護アイビー事業のうち3つの事業に参加する（配置は別紙参照）。
- (2) ふれあい給食は各地域の公立小学校，高齢者会食は各地域福祉センターで実習を行う。
- (3) 介護予防デイサービス、通所介護アイビー事業は調布市社会福祉協議会で行う。
- (4) 時間，指導者などは各事業によって異なるため別紙（調布市社会福祉協議会の実習方法）を確認し、場所も事前に確認しておく。

3) 実習の流れ

- (1) 健康状態確認票を臨地実習指導者に確認してもらう。
- (2) 集合時間 5 分前には所定の場所に集合し挨拶をする。
- (3) 昼食前後にはスタッフに報告をする。
- (4) 実習終了時に報告とお礼を述べる。
- (5) 実習中に施設より指導を受けたことなど報告することがあれば，学校に連絡をする。

4) 留意事項

- (1) 事業目的や内容によっては実習場所が違うため、前もって場所の確認をしておく。
- (2) 健康診査と検便検査の結果を前半グループと後半グループに分け送付する。
(健康係り)
- (3) ふれあい給食の実費分(1人1食285円)は日ごと、さらに拠点ごとに準備しオリエンテーション当日に渡す。
*小袋にはそれぞれ「日付・拠点(染地 or 緑ヶ丘 or 石原 or 北ノ台)・中に入れている金額」を記載し、外側の袋には「慈恵ふれあい給食費 前半 ¥〇〇」と記載する。

4. 事前学習

- 1) 地域における社会福祉協議会の役割
- 2) 調布市社会福祉協議会の事業内容
- 3) 高齢者とのコミュニケーションの原則

グループホーム実習

1. 目的

地域の中でのグループホームの役割を知り、老年者の生活支援のあり方について考える。

2. 目標

- 1) 地域におけるグループホームの役割を理解できる。
- 2) 認知症を生きる老年者の生活環境や支援のあり方を知る。
- 3) 認知症を生きる老年者とのコミュニケーションの実際を知る。
- 4) 家族や地域との連携の実際を知る。
- 5) 認知症を生きる高齢者への看護のあり方を考える。

3. 方法

1) オリエンテーション

時間	内容	講師
3.0 時間	地域におけるグループホームの役割 ①グループホームの機能 ②設置基準と職員配置基準 ③入所者の特性 ④生活支援の実際 (DVD) ⑤地域・医療との連携 ⑥実習上の留意事項	有限会社 ノベライズ社 代表取締役 吉田 正浩先生

2) 各グループホームでの実習方法

- (1) 参加型見学実習とする。
- (2) 各グループホームは、まりあ（八王子市）、深大寺元町（調布市）、麻生（川崎市）、たま（川崎市）の4事業所とする（配置表参照）。
- (3) 見学時間は7.5時間（1日）10：00～16：00とし、終了後グループ毎に1時間のカンファレンスとまとめの時間とする。
- (4) グループホームで行われる行事には積極的に参加する。
外出して昼食をとる場合もあるため、1000円程度持参しておく。
＊基本的には老年者と調理して一緒に食べる（費用350～450円を準備しておく）

3) 実習の流れ

- (1) 健康状態確認票を臨地実習指導者に確認してもらう。
- (2) 集合時間5分前には所定の場所に集合し、インターホンを押し、挨拶をする。
- (3) 目標に沿って見学したい内容や聞きたいことを具体的に書いた日々録を指導者に提出する。
- (4) 昼食前後にはスタッフに報告をする。
- (5) 実習終了時に報告とお礼を述べる。
- (6) 実習中に施設より指導を受けたことなど報告することがあれば、学校に連絡をする。

4) 注意事項

- (1) 実習記録（日々録）は1部コピーをして、グループホームごとに学生が送付する。
- (2) 服装は家庭的な雰囲気を配慮し私服とする。エプロンや氏名証は不要で、上履きはスリッパとする。
- (3) 健康診査・検便検査の結果を封筒に**人数分**を入れ、初日に指導者に渡す。

4. 事前学習について

- 1) グループホームの機能
- 2) グループホームの入所者基準
- 3) 認知症の病態と症状
- 4) 認知症を生きる老年人への関わりの原則

介護老人福祉施設

1. 目的

地域の中での介護老人福祉施設の役割を知り、老年者の生活支援のあり方について考える。

2. 目標

- 1) 地域における介護老人福祉施設の役割を理解できる。
- 2) 入所者の特性がわかる。
- 3) 入所者の生活のあり方を考える。
- 4) 老年者とのコミュニケーションのあり方を考える。
- 5) 多職種との連携の実際を知り、看護の役割を考える。

3. 方法

1) 各施設での実習方法

- (1) 実習時間は7.5時間(1日間)とする。
- (2) 参加型見学実習とする。
- (3) 各介護老人福祉施設は5施設とし、どこの施設で実習を行うのか確認をする(配置表参照)。
- (4) 各施設によって若干開始・終了時間が異なるため確認しておく。
- (5) 施設で行われる行事には積極的に参加する。

2) 実習の流れ

- (1) 健康状態確認票を臨地実習指導者に確認してもらう。
- (2) 集合時間5分前には所定の場所に集合し、インターホンを押し、挨拶をする。
- (3) 目標に沿って見学したい内容や聞きたいことを具体的に書いた日々録を指導者に提出する。
- (4) 昼食前後にはスタッフに報告をする。
- (5) 実習終了時、着替えを行う前に忘れ物の有無、ゴミの有無を確認し着た時よりもきれいに整える。
- (6) 実習終了時に報告とお礼を述べる。
- (7) 実習中に施設より指導を受けたことなど報告することがあれば、学校に連絡をする。

3) 注意事項

- (1) 健康診査・検便検査の結果を封筒に人数分を入れ、初日に指導者に渡す。
- (2) 昼食は各自で準備する。

4. 事前学習について

- 1) 介護老人福祉施設の機能
- 2) 利用できる老年者の基準と職員の配置基準
- 3) 認知症の病態と症状
- 4) 認知症を生きる老年者への関わりの原則

介護老人保健施設

1. 目的

地域の中での介護老人保健施設の役割を知り、老年者の生活支援のあり方について考える。

2. 目標

- 1) 地域における介護老人保健施設の役割を理解できる。
- 2) 老年者の生活支援のあり方を知る。
- 3) 老年者とのコミュニケーションのあり方を考える。
- 4) デイケアの利用者の特性と事業内容がわかる。
- 5) 多職種との連携の実際を知り看護師の役割について考える。

3. 方法

1) 現地オリエンテーション (0.5 日間)

- (1) 事前学習をし、日々録に目標と知りたい内容を記載して臨む。
- (2) 時間は実習施設によって異なるため確認をする。
- (3) 場所やアクセス方法、所要時間もあらかじめ調べておく。
- (4) 健康手帳コピー及び検便検査結果を持参する。
- (5) 施設より指導を受けたことや変更点など報告することがあれば、学校に連絡をする。
- (6) 上靴と靴を入れる袋を持参する。
- (7) 実習要綱 (学校での事前オリエンテーション) と若干施設によって変更点がある可能性があるので注意する。

2) 各保健施設での実習方法

- (1) 実習時間は 30 時間 (4 日間) とする。
- (2) 参加型見学実習とする。
- (3) 各介護老人保健施設は、7 施設としどこの施設で実習を行うのか確認をする。(配置表参照)
- (4) 実習時間は 1 日 7.5 時間であるが、各施設によって若干開始・終了時間が異なるため確認しておく。
- (5) 施設で行われる行事には積極的に参加する。
- (6) デイケアに半日から 1 日参加する。

3) 実習の流れ

- (1) 健康状態確認票を臨地実習指導者に確認してもらう。
- (2) 実習開始 5 分前の時間には外部実習服に着替えた上で所定のフロアに到着しておく。
- (3) 目標に沿って見学したい内容や聞きたいことを具体的に書いた日々録を指導者に提出する。
- (4) 昼食前後にはスタッフに報告をする。
- (5) 実習終了時、着替えを行う前に忘れ物の有無、ゴミの有無を確認し着た時よりもきれいに整える。
- (6) 実習終了時に報告とお礼を述べる。
- (7) 実習中に施設より指導を受けたことなど報告することがあれば、学校に連絡をする。

4) アクティビティ企画

- (1) アクティビティの企画について実施日時を確認しておく。また施設のアクティビティの使用物品を確認する（実習初日）。
- (2) アクティビティ実施日までに実施するフロアのスタッフと実習指導者に企画内容について打ち合わせをし、指導を受ける。

5) カンファレンス

- (1) 最終日に実習指導者及び教員とカンファレンスを行う。
- (2) 最終カンファレンスの時間と参加者を確認し（3日目の17:30まで）、実習担当教員に連絡する。
- (3) カンファレンス資料を作成し、朝に指導者へ、カンファレンスの前に教員に渡す。
- (4) カンファレンス資料は参加人数＋1部準備する。

4. 事前学習について

- 1) 介護老人保健施設の役割と機能
- 2) 各自の実習保健施設の概要（沿革、理念、設置主体、構造、スタッフの職種と人数など）
- 3) 利用できる老年者の基準と職員の配置基準
- 4) 老年者とのコミュニケーションの原則
- 5) 地域におけるディケアの役割と使用者の特性
- 6) 多職種それぞれの役割

慈恵医大第三病院外来

1. 目的

外来に通院する老年者の加齢や疾病管理と生活の関連性を知り，生活支援について考える．

2. 目標

- 1) 加齢による外来通院のへの影響を知る．
- 2) 老年者とのコミュニケーションのあり方を考える．
- 3) 加齢や疾病管理の生活への影響を知る．
- 4) 地域で生活する老年者への支援のあり方を考える．

3. 方法

1) 服装

所定の外部実習服，及び氏名証とする．

2) 内容

- (1) 実習時間：8：00～16：30
- (2) 外来患者を選定してもらい，患者が到着後，指導者より実習の趣旨を説明していただき，了承をえることができたなら挨拶（学校名，学年，氏名，実習目的）をする。
- (3) 患者さんの外来スケジュールに沿って行動させてもらう。
- (4) 患者さんの外来受診が終了したら，玄関まで同行し挨拶とお礼を述べて外来に戻る。
- (5) 2～3名の患者さんの外来と一緒に同行する。

3) 実習の流れ

- (1) 健康状態確認票を教員に確認してもらう。
- (2) 実習開始5分前の時間には外部実習服に着替えた上で所定の外来に到着しておく。
- (3) 目標に沿って見学したい内容や聞きたいことを具体的に書いた日々録を指導者に提出する。
- (4) 昼食前後にはスタッフに報告をする。
- (5) 実習終了時に報告とお礼を述べる。

4) カンファレンス

- (1) 15：00～16：00 学校でカンファレンスを行う。
- (2) テーマは「加齢による外来通院の影響と生活支援」について
- (3) 16：00～16：30 は教員への報告や質問の時間、またはカンファレンスの記録の時間とする。

評価項目と内容

	評価項目	内容
1	看護の役割と機能が理解できる	介護老人保健施設・介護老人福祉施設・グループホーム・デイケアの機能を基に、それぞれの施設の中で看護師の人数や業務内容を記述でき、看護師の役割について考える。現状から看護のあり方や課題を考える
2	入所者の特性が理解できる	介護老人保健施設・介護老人福祉施設・グループホーム・デイケアの機能を基に、利用者の平均要介護度、平均年齢、平均入所期間、健康状態(既往歴)、入所にいたった経過などが記述されている。
3	加齢による生活の影響が理解できる	加齢による身体的・精神的・社会的特徴が生活にどのように影響しているのか、実際の老年者の施設での生活場面や援助場面(食事介助・入浴介助・を基に具体的に記述されている。また老年者が生活の中で外来に通院することはどのようなことか記述されている
4	生活を支える援助について考えることができる	3を基にどのように支援しているのか、する必要があるのか自己の考えが記述されている。また施設における老年者の生活を支える取り組みの内容とその意味について考察されている。
5	家族との連携について考えることができる	介護老人保健施設・介護老人福祉施設・グループホームに入所している利用者の家族・デイケアに通所している利用者の家族との連携方法と連携内容が記述でき、また家族の現状から連携のあり方について考える
6	多職種との連携が理解できる	介護老人保健施設・介護老人福祉施設・グループホーム・デイケアの機能を基に、施設の中で働く職種(特に介護職)と看護師の連携方法とその内容が記述できている・連携のあり方が考察できている。
7	自立した老年者の生活が理解できる	一人暮らしの老年者の生活特性(24時間の過ごし方・食事・交流)、生活上の困った事、身体症状や健康管理、楽しみ、家族との関係、元気で自立した生活を送るための秘訣などが記述できる。
8	事業の目的と内容が理解できる	自立した老年者の介護予防の必要性が考察されている。事業の目的を基に実際の事業内容が具体的に述べられている。地域の中で意味について考察できている。(社会福祉協議会・介護予防推進センター・デイケア)
9	認知症老年者とのコミュニケーションがとれる	認知症高齢者とのかかわりの場面を具体的に述べられている。その場面からどのように関わる必要があるのか述べられている。
10	老年者の特徴を踏まえたコミュニケーションがとれる	コミュニケーションにおける老年者の特徴を踏まえ、自分の実践したコミュニケーション場面を抽出し、考察できている。また老年者のペースに合わせた関わり場面を抽出し考察できている。
11	安全に生活するための環境調整ができる	老年者の体調の管理のあり様や観察の方法、実施したケア(歩行介助・入浴介助・食事介助など)が述べられ、安全に生活する方法が考察されている。(介護老人福祉施設・介護老人保健施設・グループホーム)
12	人生観・価値観を尊重して関わるができる	老年者の語りからどのような人生を歩んできたのか、どのようなことを大切に生きてこられた方なのかが記述でき、かかわり方が具体的に述べられている。
13	アクティビティ・ケア	保健施設でのアクティビティケアの必要性を基に、目的に沿って老年期の特徴を踏まえた内容を計画し、安全性・安楽性・自立性を考えて運営し、評価できる。

社会福祉協議会の実習方法の詳細

表1

	ふれあい給食	高齢者会食	介護予防(よつば)	ディサービス(アイビー)
集合時間	9:30	9:30	9:00	9:00
実習方法	見学を中心とした参加型	ボランティアの方と一緒に調理をしながらの参加型	見学を中心とした参加型	見学を中心とした参加型
場所	染地・北ノ台・緑ヶ丘・石原小学校	各地区の地域福祉センター	調布市総合福祉センター	調布市総合福祉センター
指導者	社会福祉協議会の職員	地域のボランティアの方	社会福祉協議会の職員	社会福祉協議会の職員
カンファ	なし	なし	なし	なし
持参品	エプロン、三角巾(バンダナでも可)、サージカルマスク1枚程度、氏名章			
特別持参	285円(給食費実費・事前徴収) 実習日・拠点ごとにまとめる。	550円(食材費) 封筒にお釣りがないように 準備して現地にて渡す	お弁当または外食	お弁当
留意事項	着替える場所がないため実習する服装(所定の外部実習服)で施設に通う。施設に入るときは靴から上履きの運動靴に履き替え持参した袋に入れる。挨拶は正面玄関で気持ちよく。欠席の連絡は各自で責任を持って施設に連絡する。ゴミは各自で持って帰る。給食費や食材費はグループでまとめておつりが無いように封筒にまとめる。			

介護老人福祉施設の実習方法の詳細

表2

	こまえ正吉苑	よつや苑	いなぎ正吉苑	きたざわ苑	ときわぎ国領
実習時間	集合時間 8:00 実習時間 8:30～17:00 ※よつや苑は8:30に間に合うように集合				集合時間 8:45 9:00～17:30
実習方法	見学を中心とした参加型 介護職と共にケアに参加				
指導者	実習調整者	実習調整者	実習調整者	実習調整者	介護部長/介護主任
カンファ	なし	なし	なし	なし	15:30から(指示あり)
持参品	所定の外部実習ユニホーム、エプロン(2着:1着は氏名を貼り付ける)、三角巾(バンダナでも可)、入浴介助用のTシャツ・短パン(透けないもの)、サージカルマスク3枚程度(必要分)、昼ご飯、お茶、各階に上がる時に持参する袋、検便検査、健康診査の結果コピー(2年次4月実施)、上履き				
特別持参	8:30～朝のミーティングに参加する。自己紹介と実習目標を30秒で述べられるようにする準備する				100円(ロッカー用) 後で戻ってくる
留意事項	スーツで施設に通う。施設に入るときは靴から上履きの運動靴に履き替え持参した袋に入れる。挨拶は正面玄関で気持ちよく。欠席の連絡は各自で責任を持って施設に連絡する。ゴミは各自で持って帰る。記録の時間を確保してくださることもある。				

介護老人保健施設 施設毎実習方法

表3

	アクアピア新百合	虹ヶ丘リハビリケアセンター	ふれあいの里	デンマークイン若葉台	グリーンガーデン青樹	よみうりランドケアセンター	いなほ
実習時間	8:30～17:00	9:00～17:00	8:30～17:00	9:00～17:00	8:30～17:00	初日8:10事務室前 8:30～17:00	9:00～17:00
実習方法	見学を中心とした参加型	見学を中心とした参加型	見学を中心とした参加型	見学を中心とした参加型	見学を中心とした参加型	見学を中心とした参加型	見学を中心とした参加型
ディレクター	施設側の指定日	施設側の指定日	施設側の指定日	施設側の指定日	月曜日	施設側の指定日	施設側の指定日
アシスタントディレクター	学生だけでどこかの階で実施(初日に日時調整)	学生だけでどこかの階で実施(最終日)	学生だけでどこかの階で実施(最終日)	在宅復帰棟で最終日(場所初日に調整)	最終日 3階	学生だけでどこかの階で実施(初日に日時調整)	学生だけでどこかの階で実施(初日に要調整)
指導者	看護主任	看護主任	看護師	看護科長	看護師	看護長	看護師
カレンス	最終日16:00～	毎日:16:30～30分間 最終日:16:00～	毎日:15:30～ 最終日:15:00～	最終日:16:00	必要時毎日 最終日:16:00	最終日:15:00～ (調整要)	最終日:15:00～ (調整要)
持参品	所定の外部実習ユニホーム、エプロン(2着:1着は氏名を貼り付ける)、三角巾(バンダナでも可)、入浴介助用のTシャツ・短パン(透けないもの)、サージカルマスク8枚程度(必要分)、昼ご飯、お茶、各階に上がる時に持参する袋、検便検査コピー(2年次4月実施)、上履き						
交通	小田急多摩線:黒川駅	小田急線:新百合ヶ丘 田園都市線:あざみ野 駅、たまプラーザ駅	京王線:武蔵野台	京王相模原線:若葉台駅	京王線:西調布駅	小田急線:新百合ヶ丘駅	京王線:調布駅
オンライン 研修 シミュレーション	調整中	調整中	調整中	調整中	調整中	調整中	調整中
特 別 参 照	聴診器		月・木は朝礼に参加 挨拶の言葉準備	朝行動計画を		氏名章	氏名章のホルダー
留意事項	スーツで施設に通う。施設に入るときは靴から上履きの運動靴に履き替え持参した袋に入れる。挨拶は正面玄関で気持ちよく。欠席の連絡は各自で責任を持って施設に連絡する。ゴミは各自で持って帰る。オリエンテーションではスリッパ及び靴を入れるための袋を持参すること。						

老年看護学実習Ⅱ

1. 目的

健康障害がある対象を理解し、看護を展開する。

2. 目標

- 1) 老年期の特徴と健康障害の関連が理解できる。
- 2) 対象の健康上の問題が理解できる。
- 3) 問題を解決するために必要な看護を計画・実施・評価できる。
- 4) 対象の生活信条・信念・価値観を尊重した行動がとれる。
- 5) 保健・医療・福祉の連携と調整について考えられる。

3. 実習場所と時間数

	時間	内容
オリエンテーション	1.5 時間	老年看護学実習の目的・目標・内容 実習上の留意点
経管栄養法の実際	1.5 時間	経管栄養法の目的・実施上の留意点 モデル人形を使用し、経管栄養の実施
NST 見学実習 オリエンテーション	1.5 時間	NST 見学実習の目的・目標・内容 実習上の留意点
NST 勉強会	3.0 時間	嚥下障害時の食事 脱水時の看護など

科目名	単位（時間）	実習場所	実習時間	実習日数
老年看護学実習Ⅱ	2 単位（90 時間）	慈恵第三病院	90 時間	12 日間

4. 実習内容と展開

展開	内容
1 週目	対象理解 1) 生活してきた背景の情報収集（家族も含めて） 2) 身体的、心理的、社会的、霊的な側面に着目してアセスメントする。 3) その人の望む生活を重視してアセスメントする。 4) 生活機能行動（もてる力）に着目してアセスメントできる。 5) 全体像を描き、生命や生活に影響を及ぼす大きさから優先順位を設定できる。 6) 老年者を尊重したコミュニケーション 7) 病院組織におけるNST（栄養サポートチーム）の役割を知る。
2 週目	問題解決のための援助 1) 優先順位を考え看護目標が設定できる。 2) 看護計画に基づき、看護の実践をする。 3) 安全性、安楽性、目的性、経済性を考えた看護実践をする。 4) 安心・自立した生活をするための環境調整（支援・マネジメント）を行う。 5) 老年者や家族の意思決定を尊重する。 6) 病院組織における褥瘡対策チームの役割を知る。
3 週目	援助の評価 1) 目標達性状況を評価・修正する。 2) 看護の一連の過程をフィードバックできる。 3) 看護のチーム間や患者を取り巻く多職種と連携し、看護の役割を発揮する。

5. 実習の進め方

1) 実習初日のオリエンテーションは以下の内容で行う。

(1) 病棟オリエンテーション

病棟の構造上の特徴と配置物品、入院患者の特性と病棟の機能的特徴、緊急時の対応、患者の 24 時間サイクル等

(2) 受け持ち患者オリエンテーション

患者氏名、年齢、性別、病名、入院年月日、入院目的と現在受けている治療の概要、治療方針、看護方針、家族との関係、受け持ち期間に行う予定の手術や検査、患者に関わるにあたり注意して欲しいこと等

(3) 行動目標・計画の調整を毎日行う。

- ・1 日の実習記録に、行動目標と行動計画を記載して臨む。
- ・朝受け持ち患者に挨拶をし、昨日の情報などから患者その日の患者の状態に合っているか修正した後、臨床指導者または教員と調整する。

(4) 受け持ち患者の援助の実施にあたって

患者の安全を守るという見地から原則的には、教員及び臨床指導者、看護師と共に行う。しかし実習 2 週目より安全が確認された看護技術（車イス移送やバイタルサインの測定など）は 1 人で実施することも可とするが、教員からの許可を受ける。

(5) 報告について

患者から得た情報や援助の前後は、臨床指導者に報告する。

6. カンファレンス

- 1) 学生が主体にテーマを決め、準備運営する。
- 2) カンファレンスのレジュメは当日の朝までに教員・指導者・メンバーに提示する。
同時にカンファレンスのテーマに沿った文献も準備する。
- 3) 原則として 15:00～で、会議・講義の予定により変更することがある。
- 4) 必要時、教員や臨床指導者より助言をもらいながら進める。
- 5) テーマカンファレンスの内容は、褥瘡予防と処置、老年者と経口与薬法とする。しかし学生の希望があれば他のテーマでも良い。
- 6) カンファレンスの日程は以下の通りとする。

	1 週目	2 週目（問題解決のための援助）	3 週目（援助の評価）
1 日目	質疑・情報収集	テーマカンファレンス	テーマカンファレンス
2 日目	テーマカンファレンス	ケースカンファレンス	ケースカンファレンス
3 日目	ケースカンファレンス	ケースカンファレンス	ケースカンファレンス
4 日目	ケースカンファレンス	ケースカンファレンス	総合カンファレンス

（但し、グループ内でテーマ・ケースをアレンジし実施しても良い）

7. 参加型見学実習

1) 褥瘡対策チーム

（1）目標

- ①褥瘡のアセスメントに応じた処置の方法を学ぶ。
- ②チームに参加している職種と看護師の役割を理解する。

（2）実習方法

- ①毎週木曜日 13:30～5 階看護学生カンファレンス室に集合する。
1 回の参加人数は 1～2 名とし、2 病棟の場合は、3～4 名とする。
- ②見学時は、オリエンテーション時に配布した資料を持参する。
- ③チームカンファレンスには積極的に参加する。
- ④皮膚・排泄認定看護師の指示に従って行動する。

（3）レポート

- ①見学した内容を、レポート A4 1 枚程度にまとめる。
- ②レポートは 2 部準備する。1 部は記録に閉じ 1 部はグループ全員分をまとめて、認定ナース室のポストに届ける。

2) 栄養サポートチーム（NST）

（1）目標

- ①高齢者の栄養アセスメントの視点を知る。
- ②NST を構成している職種知り、看護師の役割を考える。
- ③病棟看護師との連携の実際を知る。

(2) 実習方法

①事前オリエンテーションを受ける。(1.5 時間)

時間	内容	講師
0.5 時間	高齢者にとっての栄養の意義	栄養サポートチーム所属医師
1.0 時間	高齢者の栄養アセスメントの視点と NST での看護師の役割	栄養サポートチーム専門療法士 石川幹子 師長

②毎週水曜日 15:00～のカンファレンス及び回診に参加(1.5 時間) する。

1 回の参加人数は実習グループ人数とする。

経時的に NST の役割が見学出来るように、カンファレンスは2週に亘り参加する。

③カンファレンス及び回診時には積極的に参加する。

④栄養サポートチーム (NST) の看護師の指示に従って行動する。

(3) NST 勉強会の参加

毎月実施している NST 勉強会に 2 回以上は参加する。

(参加する勉強会は自己の興味を持った内容や実習内容から自ら考える)

(4) レポート

①見学した内容を、レポート A 4 1 枚程度にまとめる。

②レポートは 2 部準備する。1 部は記録に閉じ 1 部はグループ全員分をまとめて、担当教員に提出する。

8. 記録

1) 実習記録

(1) 一日の実習記録

①「行動目標・計画」は、毎日実習前に記載する。

②自ら立てた計画に沿って、実施内容を記載し評価する。

(2) 受け持ち患者記録

①看護過程を展開する所定の用紙

(受け持ち患者記録【情報Ⅰ】【情報Ⅱ】【情報Ⅲ】、【情報アセスメント】
【全体像】【計画】) を用いておこなう。

(1) と (2) の用紙はそれぞれ別のファイルに綴じて所定の場所に置く。

(3) 終了後レポート

ケーススタディーとする。受け持ち患者の看護過程で 1 つのテーマを選びまとめる。

構成は基礎看護学実習Ⅱに準ずる。

(4) 褥瘡回診見学レポート

2) 看護記録

病棟の看護記録には記載しない

9. 評価

- ・所定の評価表を用いて行う。
- ・実習状況、実習記録、カンファレンスから総合的に評価する

老年看護学実習Ⅰ評価表

学生番号		学生氏名	
実習期間	年 月 日 ～ 年 月 日		実習病棟
出席状況	欠席時間数 時間		
評 価	点	学生署名	教員署名

* 太枠内はボールペンで、A B C D及び自己評価は鉛筆で記入の上、提出する

評価項目		A	B	C	D	自己評価	教員評価
介護老人保健・福祉施設	1. 看護の役割と機能が理解できる						
	2. 入所者の特性が理解できる						
	3. 加齢による生活への影響が理解できる						
	4. 生活を支える援助について考えることができる						
	5. 家族との連携について考えることができる						
	6. 多職種との連携が理解できる						
						/30	/30
社会福祉協議会	1. 自立した老年者の生活が理解できる						
	2. 事業の目的と内容が理解できる						
						/10	/10
実施	1. 認知症の老年者とのコミュニケーションがとれる						
	2. 老年者の特徴を踏まえたコミュニケーションがとれる						
	3. 安全に生活するための環境調整ができる						
	4. 人生観・価値観を尊重して関わるができる						
						/20	/20
態度	1. リーダー、メンバーとして役割がとれる						
	2. 積極的に実習に臨み、質問や学習ができる						
	3. 健康状態に留意し、遅刻欠席がない						
	4. 服装・言葉遣い・態度をわかまえている						
	5. 連絡・報告・相談ができる						
						/25	/25
アクティビティケア							
						/10	/10
レポート							
						/5	/5
教員評価							

老年看護学実習Ⅱ評価表

学生番号	学生氏名		
実習期間	年 月 日 ～ 年 月 日		実習病棟
出席状況	欠席時間数 時間		
評 価	点	学生署名	教員署名

*太枠内はボールペンで、A B C D及び自己評価は鉛筆で記入の上、提出する

評価項目		A	B	C	D	自己評価	教員評価
ア セ ス メ ン ト	1. 生活してきた生活背景がわかる（健康歴、家族関係、生活史 日常生活習慣、住居環境、地域サービス、信条など）						
	2. 生理様式、心理・社会様式の情報収集及び適応状態の判断ができる						
	3. 身体的側面（加齢、病態、治療、健康の段階を含む側面 に着目し、アセスメントできる						
	4. 心理・社会的側面に着目してアセスメントできる						
	5. 生きてきた過程や望む生活、生活機能行動（もてる力）を 重視してアセスメントできる						
	6. 全体像を描き、生命や生活に影響を及ぼす大きさか らから優先順位が設定できる						
計 画	1. 看護目標が設定できる						
	2. 解決のための具体的な援助方法が提示できる						
実 施 ・ コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン	1. 安全性、安楽性、効率性を考えながら実施できる						
	2. 老年者の自立を考えながら実施ができる						
	3. 老年者や家族の意思決定を尊重し調整できる						
	4. 老年者の特性を踏まえた関わりができる						
評 価	1. 目標達成状況を評価できる						
	2. 看護の一連の過程をフィードバックできる						
態 度	1. リーダー、メンバーとして役割がとれる						
	2. 積極的に実習に臨み、質問や学習ができる						
	3. 健康状態に留意し、遅刻欠席がない						
	4. 服装・言葉遣い・態度をわきまえている						
	5. 連絡・報告・相談ができる						
ケーススタディ：テーマ							
						/5	/5
教員評価							

慈恵第三看護専門学校

学生番号 _____ 氏名 _____